

砂防

福岡県の砂防

FUKUOKA



福岡県県土整備部砂防課

目 次

● 福岡県の自然	
1. 地 勢	1
2. 気 象	2
3. 地 質	2
● 福岡県を襲った土砂災害	
1. 平成30年7月豪雨災害	3
2. 平成29年7月 九州北部豪雨災害	4
3. 平成24年7月 九州北部豪雨災害	5
4. 平成21年7月 中国・九州北部豪雨災害	6
5. 平成17年 福岡県西方沖地震	6
6. 平成15年 四王寺・三郡山系災害	7
7. 平成3年 台風17号、19号風倒木災害	7
8. 平成2年 県南土砂災害	8
9. 昭和48年 宝満・三郡山系災害	8
10. 昭和38年 早良土砂災害	9
11. 昭和28年 門司大災害	9
● 福岡県の砂防事業	
1. 砂防事業の歩み	10
2. 通常砂防事業	11
3. 地すべり対策事業	12
4. 急傾斜地崩壊対策事業	13
5. 災害関連緊急事業	14
6. 砂防激甚災害対策特別緊急事業	19
● その他の施策・関連事業	
1. 災害関連情報の提供等のソフト対策	20
2. 砂防協会の活動について	22
● 土砂災害防止法	23
● 福岡県の土砂災害警戒区域等箇所数	24
● 砂防指定地等の管理	25
● 福岡県の砂防事業の推移	26

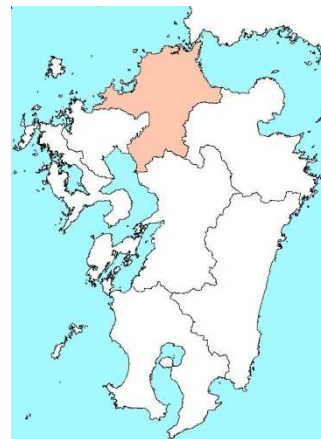
●福岡県の自然

1. 地 勢

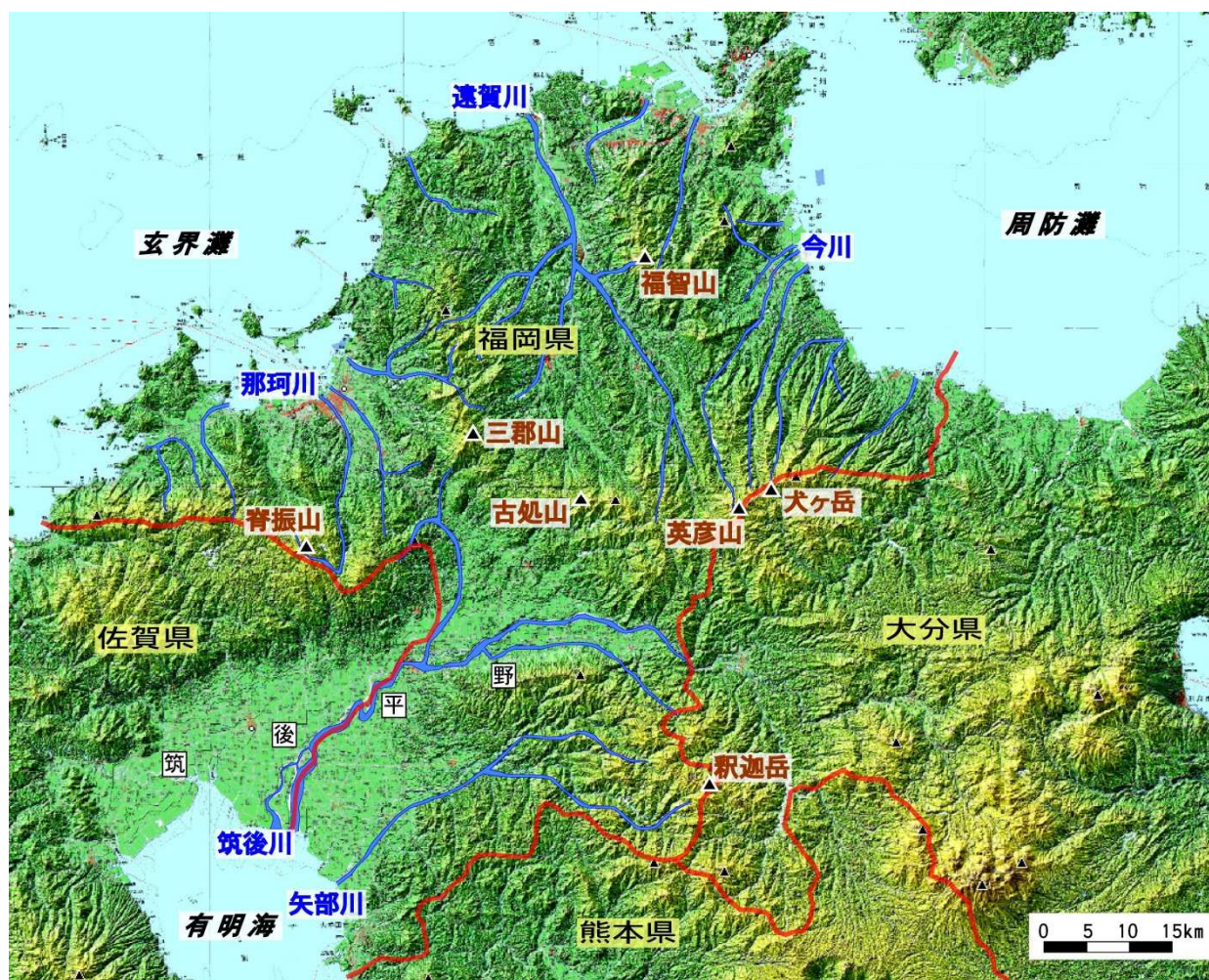
本県は、九州の北端に位置し、北は玄界灘、響灘、東は周防灘、南は有明海によって三方を海に囲まれ、筑紫山地、脊振山地、耳納山地等の山地と、その間を流れる筑後川、矢部川、遠賀川、山国川等の河川やその地域に展開する肥沃な平野など自然に恵まれた地域です。

県北部では英彦山に源を発する遠賀川が筑豊盆地、直方平野、遠賀平野を形成しながら響灘へ注ぎ、周防灘に面した県東部は、遠浅の海岸に沿って豊前平野が発達しています。県南部では大分県の九重連山に源を発する筑後川や、釈迦岳山地から流れ出た矢部川が、筑後平野を形成しながら有明海へ注いでいます。県の北西部では室見川、御笠川、那珂川などが福岡平野を形成しながら博多湾へ注ぎ、糸島半島には唐津湾に流れる雷山川、博多湾に流れる瑞梅寺川により糸島平野が形成されています。

県内の主な山地には、佐賀県との境をなす脊振山地（脊振山 1,055m）、大分県との境をなす英彦山地（英彦山 1,200m、犬ヶ岳 1,131m）、熊本県との境をなす釈迦岳山地（釈迦岳 1,230m）のほか、英彦山から西へ延びる古処山地（古処山 860m）三郡山地（三郡山 936m）、筑豊盆地と豊前平野に挟まれた福地山地（福智山 901m）があります。



位置図

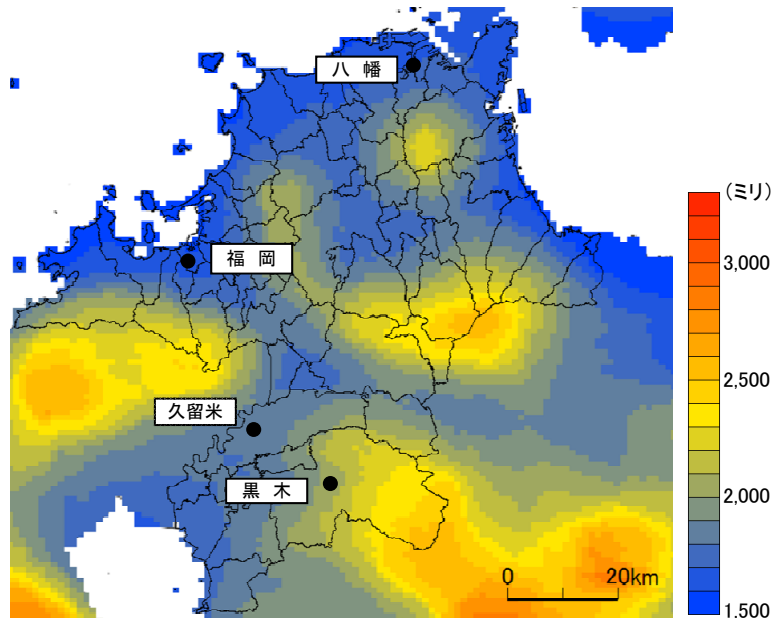
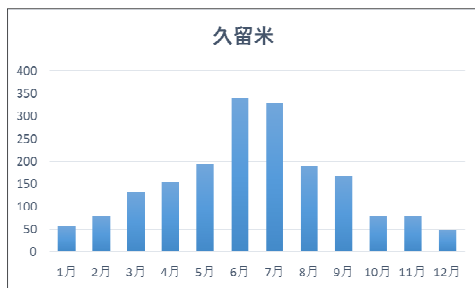
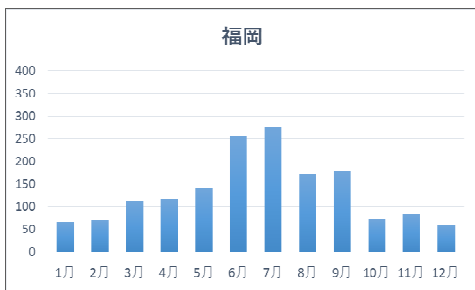
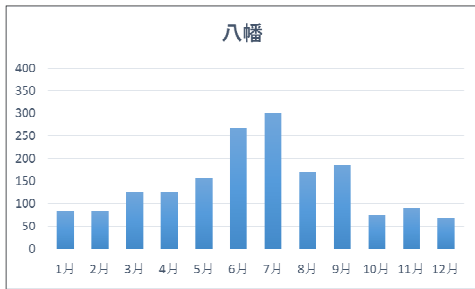


福岡の地形

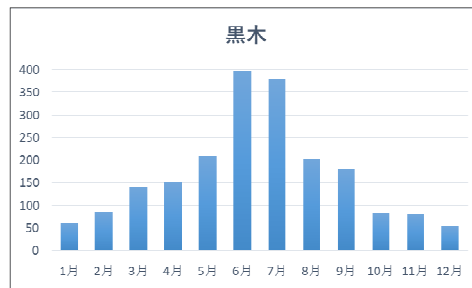
2. 気象

本県は、対馬海流の支流が流れる玄界灘に面しているため比較的温暖な気候ですが、日本海に面した北部沿岸沿いは、冬季に大陸高気圧から吹き付ける季節風の影響で、日本海型気候の特徴もみられます。県内の年間降水量は、北部沿岸や筑豊・周防灘沿岸は1,500mmほどで、筑後地方は1,500mm～2,000mm、山沿いでは2,200mm前後、山地は2,500mm以上に達し、梅雨期には激しい集中豪雨により土砂崩れや河川の氾濫などの災害が発生することがあります。

各地の雨量はアメダスの30年間平均値
(1981-2010)



気象庁メッシュ気候値
年降水量平年値
統計期間:1981年～2010年
(福岡管区気象台提供)



3. 地質

本県の山地で最も広く分布する地質は、第三紀層の安山岩と凝灰質角礫岩で、豊前山地の大部分とみやこ町（旧犀川町）、添田町、東峰村（旧宝珠山村）の英彦山山地及びうきは市（旧浮羽町）、八女市（旧星野村、旧矢部村）と大分県境に至る山地の大部分がこれに類します。次いで古生代の変成岩が八女市（旧立花町、旧上陽町）の発心一帯および香春町とみやこ町（旧勝山町）との境界山地に分布しています。さらに中生代の白亜系の花崗岩類が金山、油山、九千部山、三郡山、大坂山、蔵持山等に分布し、これとほぼ同面積を中生代の花崗閃緑岩が占めており、糸島郡山地の大部分と筑前町（旧夜須町）および脊振山から金山にかけての地帯に分布しています。

過去に土石流をとまなう大災害が発生した地域の地質は、昭和28年の門司災害では古生代の頁岩、砂岩、礫岩、凝灰質岩と閃緑岩類、昭和34年の糸島災害では中生代の白亜系花崗閃緑岩、昭和38年の早良災害では同じく中生代の白亜系花崗岩類、昭和48年の宝満・三郡山系災害では太宰府附近が上部白亜系の早良型花崗岩類、篠栗町附近では角閃岩等から成る三郡変成岩でした。

このように県内を地質別にみた場合、いずれの地質も著しく風化したものが多く、大雨に対して崩壊しやすい状態にあるといえます。

●福岡県を襲った土砂災害

1. 平成30年7月豪雨災害

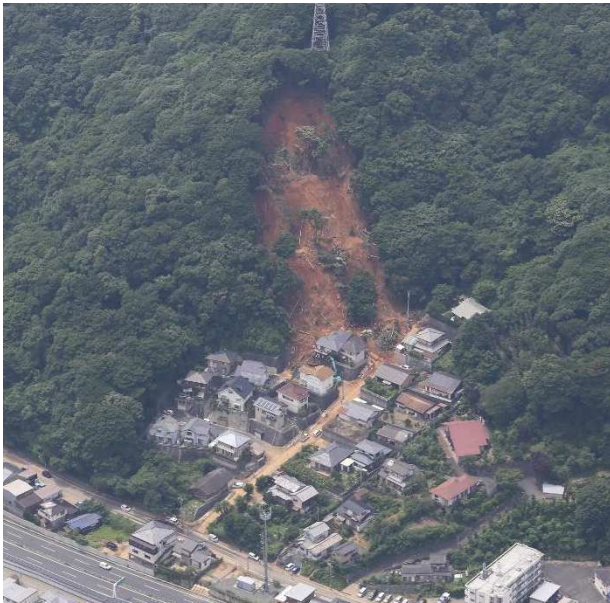
被災地： 北九州市、飯塚市、筑紫野市 他

平成30年7月5日から8日にかけて、九州北部地方に停滞していた梅雨前線に南から温かく湿った空気が流入したため、長時間にわたり大気の状態が非常に不安定となり記録的な大雨になりました。

福岡県では、5日から8日にかけての降水量は、県内の多い所で、添田541mm、早良脇山517mm、英彦山464mmとなり、添田や英彦山では平年の7月の月降水量を上回る記録的な大雨となり、県内の広範囲で土砂災害が発生しました。この豪雨災害により、全壊 13戸、半壊 185戸の家屋被害や、県内で死者4名（北九州市 3名、筑紫野市 1名）が確認される大きな被害が発生しました。



箇所図



◁ 北九州市門司区のがけ崩れ状況

▽ 北九州市門司区の土石流状況



△ 筑紫野市のがけ崩れ状況



△ 飯塚市の地すべり状況

●福岡県を襲った土砂災害

2. 平成29年7月 九州北部豪雨災害

被災地： 朝倉市、東峰村、添田町

平成29年7月5日から6日にかけて、九州北部地方で発生した集中豪雨により、福岡県、大分県を中心として記録的な豪雨となりました。

福岡県では、5日午後に筑後地方北部で次々と積乱雲が発生し、発達しながら東へと移動して線状降水帯が形成されたため、同じ場所で長時間猛烈な雨が降り続けました。特に、朝倉市付近では3時間で約400mm、12時間で約900mmの雨量が観測されました。朝倉市黒川の雨量計では、9時間降水量778mmを観測し、12時間降水量の気象庁観測日本記録707mmを大きく上回り、朝倉市の山間部は日本の気象観測史上でも最大級の降水量となりました。

この豪雨災害により、全壊及び半壊した家屋数1,104戸、死者不明者40名が確認され、大きな人的被害となりました。



箇所図



△朝倉市杷木松末の土石流状況



△朝倉市須川(須川第一砂防堰堤)の土石流補足状況



△朝倉市杷木松末のがけ崩れ状況



△東峰村宝珠山のがけ崩れ状況

●福岡県を襲った土砂災害

3. 平成24年7月 九州北部豪雨災害

被災地： 八女市、朝倉市、うきは市他

平成24年7月11日から14日にかけて、九州北部地方に停滞した梅雨前線の影響により、福岡県、熊本県、大分県、佐賀県各地で記録的な豪雨となりました。

福岡県では、13日～14日にかけて、福岡県南部地域を中心に1時間の解析雨量約110mmと言う記録的短時間大雨に見舞われ、黒木、耳納山、久留米、朝倉観測所では最大24時間降水量が観測史上1位の大雨となりました。この豪雨により福岡県各地で甚大な土砂災害が発生して大きな被害をもたらしました。八女市黒木町田代地区では大規模な地すべりが発生し、多量の崩壊土砂が笠原川に流入しました。



箇所図



△八女市星野村の地すべり状況



△八女市星野村の土石流発生状況



△朝倉市杷木池田のがけ崩れ状況



△砂防堰堤による土石流捕捉状況

4. 平成21年7月 中国・九州北部豪雨災害

被災地：篠栗町、大野城市、筑紫野市他

平成21年7月19日から26日にかけて梅雨前線の活動が活発化し、中国地方や九州北部で、記録的な大雨を観測しました。福岡県では、24日の夕方から夜のはじめ頃を中心に大雨となり、19時25分までの1時間に博多（福岡空港）で116.0mmの記録的な雨が降り、19時頃から21時頃にかけて福岡地方、筑豊地方の各地で1時間110mm以上の大雨が発生しました。この豪雨で、福岡県各地で土砂災害が発生して大きな被害をもたらしました。特に篠栗町一の滝川では土石流によって、死者2名、全壊家屋2戸、一部損壊1戸などの大きな災害が発生しました。



箇所図



◁ 篠栗町一の滝地区の土石流発生状況



△ 篠栗町一の滝地区の土石流災害状況

5. 平成17年 福岡県西方沖地震

被災地：福岡市西区玄界島 他

平成17年3月20日10時53分頃、福岡県西方沖を震源とするマグニチュード(M)7.0の地震が発生しました。特に震源に近い玄界島（福岡市西区）では、家屋の8割以上が被災し10人が重傷を負ったが、住民の適切な処置によりガスの元栓を締めながら避難するなどの対応で、死者はなく火災などの二次災害も防ぐことができました。また、震源から10km～15kmの範囲にある西区西浦や東区志賀島でもがけ崩れなどの被害が発生しました。



◁ 地震直後の玄界島

急な斜面での表層崩壊▷



6. 平成15年 四王寺・三郡山系災害

被災地: 太宰府市、宇美町、飯塚市(旧筑穂町)他

平成15年7月18日の夜から19日の未明にかけて、福岡県地方は梅雨前線の活発化に伴い、猛烈な豪雨に見舞われました。福岡県の中央部に近い四王寺山、三郡山系では、気象庁の太宰府観測所で1時間に99mmを観測するなど、記録的な集中豪雨に見舞われました。この雨で、太宰府市、飯塚市(旧筑穂町)を中心とした地域で、多数の土砂災害が発生し、また北九州市を中心とした地域でも崖崩れ災害が発生しました。特に太宰府市原川では、土石流によって、死者1名、全壊家屋6戸、半壊14戸、一部損壊20戸などの大きな被害が発生しました。



箇所図



△太宰府市原川の土石流発生状況



△太宰府市三条地区の土石流被害状況



7. 平成3年 台風17号、19号風倒木災害

被災地: 久留米市(旧田主丸町)、八女市(旧星野村)、添田町、上毛町(旧大平村)他

平成3年9月に九州を直撃した台風17号・19号により、九州地方は2度にわたって大きな被害を受けました。特に9月27日に福岡県西部を通過した台風19号は最大瞬間風速60m/s以上の猛烈な暴風を記録し、福岡県・大分県・熊本県・佐賀県に未曾有の森林被害をもたらしました。

被害地域では、倒木が出水時に流れ出す危険性や、緩んだ地盤によって斜面崩壊や土石流をおこす恐れがあったため、災害関連緊急砂防事業等による対策が実施されました。この時から、台風などによる森林被害に「風倒木」という言葉が広く使われるようになりました。



箇所図



△田川郡添田町 駒啼川流域



△久留米市田主丸町(旧田主丸町) 冷水川流域

8. 平成2年 県南土砂災害

被災地:八女市(旧立花町)、みやま市(旧山川町、旧高田町)、大牟田市他



△ みやま市(旧高田町)原地区の被災状況

平成2年6月29日から降り出した雨は、7月2日には梅雨前線の活発化に伴い九州北部地方全域で大雨となりました。この雨によって八女市(旧立花町)、みやま市(旧山川町、旧高田町)、大牟田市などを中心に土砂崩れ、土石流、河川の氾濫を引き起こし、死者4名、負傷者19名、家屋の全・半壊合せて113戸、床上、床下浸水8,413戸等の大災害となりました。みやま市(旧高田町)の原地区では大規模な土石流が発生し、甚大な被害を被りました。

箇所図



9. 昭和48年 宝満・三郡山系災害

被災地:太宰府市、宇美町、飯塚市(旧筑穂町)、篠栗町、須恵町他

昭和48年7月30日夜から31日未明にかけて、寒冷前線の南下に伴い、宝満・三郡山系を中心に最大時間雨量115mm、日雨量232mm(3時間)の集中豪雨が発生しました。この豪雨により、約3,500箇所では山腹崩壊を起こし、土石流となって溪流を流下し、下流に大きな被害をもたらしました。また、多々良川水系や御笠川水系では、河川の増水により各所で堤防の破堤、道路・橋梁の流出が発生し、死者24名、被災家屋35,143戸、田畑の冠水埋没2,628ha等の大災害となりました。



箇所図



△原川被災状況



△太宰府地区土石流被害状況

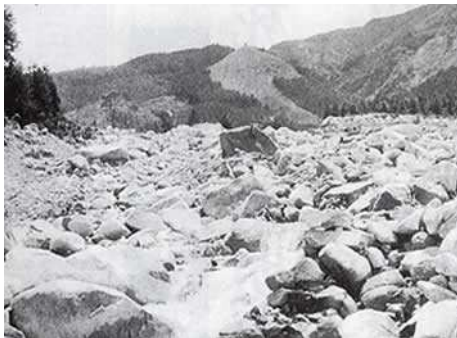
10. 昭和38年 早良土砂災害

被災地:福岡市早良区

昭和38年6月29日夜から30日午前6時頃にかけて梅雨前線の北上に伴い、福岡市早良区の佐賀県境脊振山系の金山付近では局地的な集中豪雨に見舞われました。最大時間雨量110mm、日雨量420mmに達する集中豪雨により、金山山地に大規模な山腹崩壊が各所で発生し、室見川上流の溪流は土石流の発生によって瞬時に氾濫し、死者3名、被災家屋768戸、田畑埋没250ha等の大きな被害が発生しました。



箇所図



△室見川上流部の土石流状況



△ 復旧状況(砂防堰堤)

11. 昭和28年 門司大災害

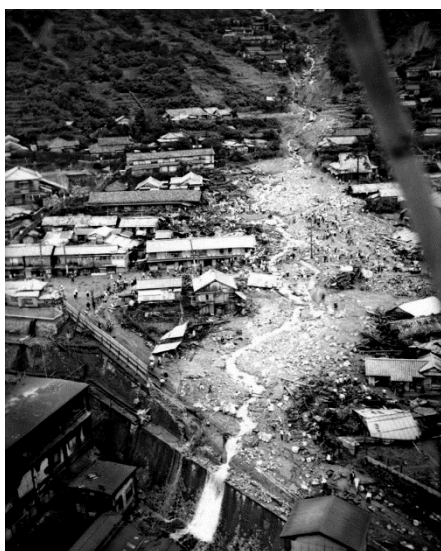
被災地:北九州市門司区

昭和28年6月、九州中部から北部にかけて記録的な豪雨に見舞われました。

特に、北九州市門司区では、6月28日に日雨量 398mm、時間雨量77mmという記録的な豪雨に見舞われ、門司市街の背後に連なる風師山、戸ノ上山の斜面がつぎつぎに山腹崩壊をおこし、土石流となって市街地へ流れ込みました。この災害で死者・行方不明者143人、被災家屋15,910戸という被害を受け、福岡県の災害史上最も大きな被害となりました。



箇所図



◁ 土石流の爪痕が生々しい門司区白木崎



△土砂で埋め尽くされた道路

●福岡県の砂防事業

1. 砂防事業の歩み



△福岡県最初の砂防事業：大力川（嘉麻市(旧嘉穂町)）

昭和28年6月には、北九州市門司区で大規模な土砂災害が発生し、直ちに門司砂防事務所が開設されました。門司砂防事務所では、その後10年間で堰堤130基、流路工4,611m、擁壁工2,100m、山腹工131,537㎡を整備し、昭和37年4月に事業の完了をみて役割を終えました。

昭和34年、八女市（旧星野村）十籠地区では、村の中心部を望む斜面に変状が見られたため、地すべり区域に指定、地すべり対策事業を開始しました。昭和48年には指定区域を拡大し、昭和52年から本格的な地すべり対策工を実施しています。



△十籠地区の地すべり区域（八女市(旧星野村)）

昭和14年遠賀川水系大力川（嘉麻市（旧嘉穂町））に床固工3基、および筑後川水系北川（朝倉市（旧杷木町））に床固工2基を着手し、本県の砂防事業が始まりました。

昭和21年2月には、戦後の溪流の荒廃や、台風や梅雨前線豪雨による災害に的確に対応すべく本県に砂防課が新設されました。



△砂防工事が進む白木崎川（北九州市門司区）

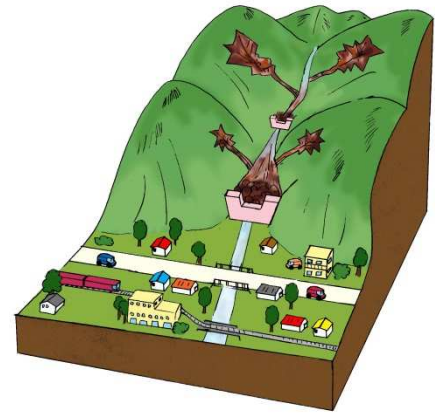
平成15年7月、集中豪雨によって福岡県の中央部に位置する四王寺山・三郡山系に多数の山腹崩壊や土石流が発生しました。本県では災害関連緊急砂防事業、砂防激甚災害対策特別緊急事業、災害関連緊急急傾斜地崩壊対策事業、単県急傾斜地崩壊対策事業を立ち上げ、災害復旧工事を実施しました。



△原川の土石流災害（太宰府市）

2. 通常砂防事業

山腹や溪流にある土砂が長雨や集中豪雨によって水と一体となり、一気に下流へ流れ出す現象を土石流といいます。通常砂防事業では、流域内の荒廃地の保全や、土石流等の土砂災害から下流の人家、耕地、公共施設等を守ることを目的として、砂防堰堤工や護岸工を整備しています。



土石流から集落を守る砂防堰堤

土石流から生命・財産を守る砂防施設



△谷頭川の砂防施設(八女市星野村)



△長尾川の砂防施設(八女市市星野村)

土石流を捉えた砂防堰堤



△深倉川の土砂捕捉状況(添田町)

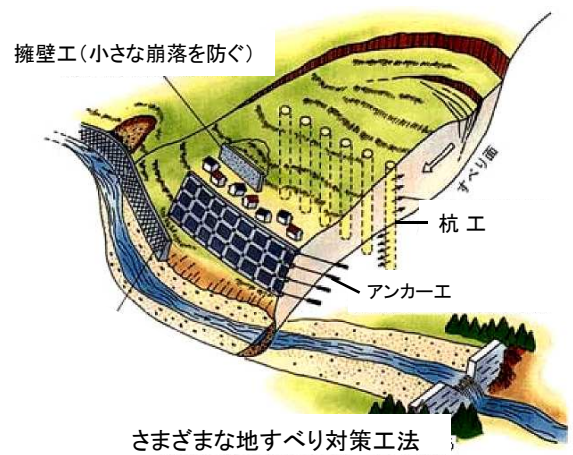


▽妙見川の土砂捕捉状況(朝倉市須川)



3. 地すべり対策事業

地すべりは、地面が大きな塊のままゆっくり滑り出すため、家や田畑、道路や鉄道等が、一度に大きな被害を受けます。地すべり対策工の種類は様々ですが、地すべりの原因を取り除くことを目的とした抑制工と、地すべりを構造物で直接押さえて安定化させる抑止工に分けられます。本県では昭和29年から地すべり対策事業に取り組んでいます。



柳原地区の地すべり対策事業

八女市(旧星野村)の柳原地区では、平成24年九州北部豪雨により地すべりが発生したため、地すべり区域に指定、地すべり対策事業を実施しています。



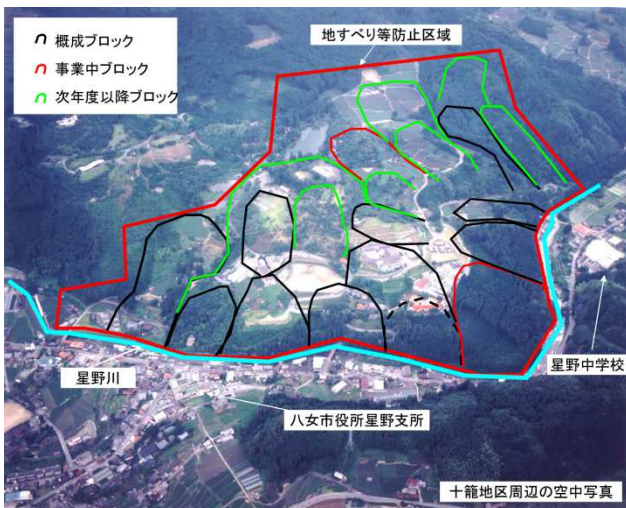
△ 平成24年九州北部豪雨により地すべりが発生



△ 完成した法面工(八女市星野村)

十籠地区の地すべり対策事業

八女市(旧星野村)の十籠地区では、村の中心部を望む斜面に変状が見られたため、地すべり区域に指定、地すべり対策事業を実施しています。



△ 十籠地区の地すべりブロック(八女市(旧星野村))



△ 完成した法面工

4. 急傾斜地崩壊対策事業

がけ崩れは、地面にしみ込んだ水分の影響で土の抵抗力が弱まり、斜面が突然崩れ落ちる現象です。瞬時に崩れ落ちるため逃げ遅れる人も多く、亡くなる人の割合も高くなります。

本県では、昭和42年に北九州市門司区長谷地区の急傾斜崩壊対策事業に着手し、その後も各地の急傾斜地崩壊危険箇所について、さまざまな対策工を実施しています。



△ 奥田3丁目地区の法面工(北九州市門司区)



△ 畑地区の法面工(北九州市門司区)



△ 出原地区の擁壁工(八女市)



△ 新町地区の法面工(鞍手郡小竹町)

5. 災害関連緊急事業【平成30年】

風水害、震災等による土砂崩壊など危険な状況に対処するために、砂防施設や地すべり対策施設、急傾斜地崩壊対策施設等の設置を目的とした事業です。平成30年7月豪雨をうけ、災害関連緊急砂防事業 1箇所、災害関連緊急地すべり対策事業 1箇所、災害関連緊急急傾斜地崩壊対策事業 8箇所、災害関連地域防災がけ崩れ対策事業 51箇所を実施しています。

災害関連緊急砂防事業



△横山川(北九州市門司区)の土石流状況

【災害関連緊急砂防事業】

番号	箇所名	所在地	工事概要	事業費
1	横山川(よこやまがわ)	北九州市 門司区	砂防堰堤	0.7 億円

【災害関連緊急地すべり対策事業】

番号	箇所名	所在地	工事概要	事業費
1	山口地区(やまぐちちく)	飯塚市	法枠工、7ツカ工	4.7 億円

【災害関連緊急急傾斜地崩壊対策事業】

番号	箇所名	所在地	工事概要	事業費
1	奥田地区(おくだちく)	北九州市 門司区	法枠工	2.3 億円
2	大里東5丁目地区 (だいらひがし5ちょうめちく)	北九州市 門司区	法枠工	2.2 億円
3	田の浦(A)地区 (たのうら(A)ちく)	北九州市 門司区	法枠工	1.3 億円
6	上藤松1丁目(a-a)地区 (かみふじまつ1ちょうめ(a-a)ちく)	北九州市 門司区	法枠工	0.9 億円
4	大蔵2丁目地区 (おおくら2ちょうめちく)	北九州市 八幡東区	法枠工	0.4 億円
5	貫(C)-2地区 (ぬき(C)-2ちく)	北九州市 小倉南区	法枠工	2.3 億円
7	大池町地区(おおいけまちちく)	北九州市 若松区	法枠工	0.7 億円
8	阿志岐地区(あしきちく)	筑紫野市 阿志岐	法枠工	0.6 億円
	合計	8 箇所		10.7 億円

災害関連緊急地すべり対策事業



△山口地区(飯塚市)の地すべり状況

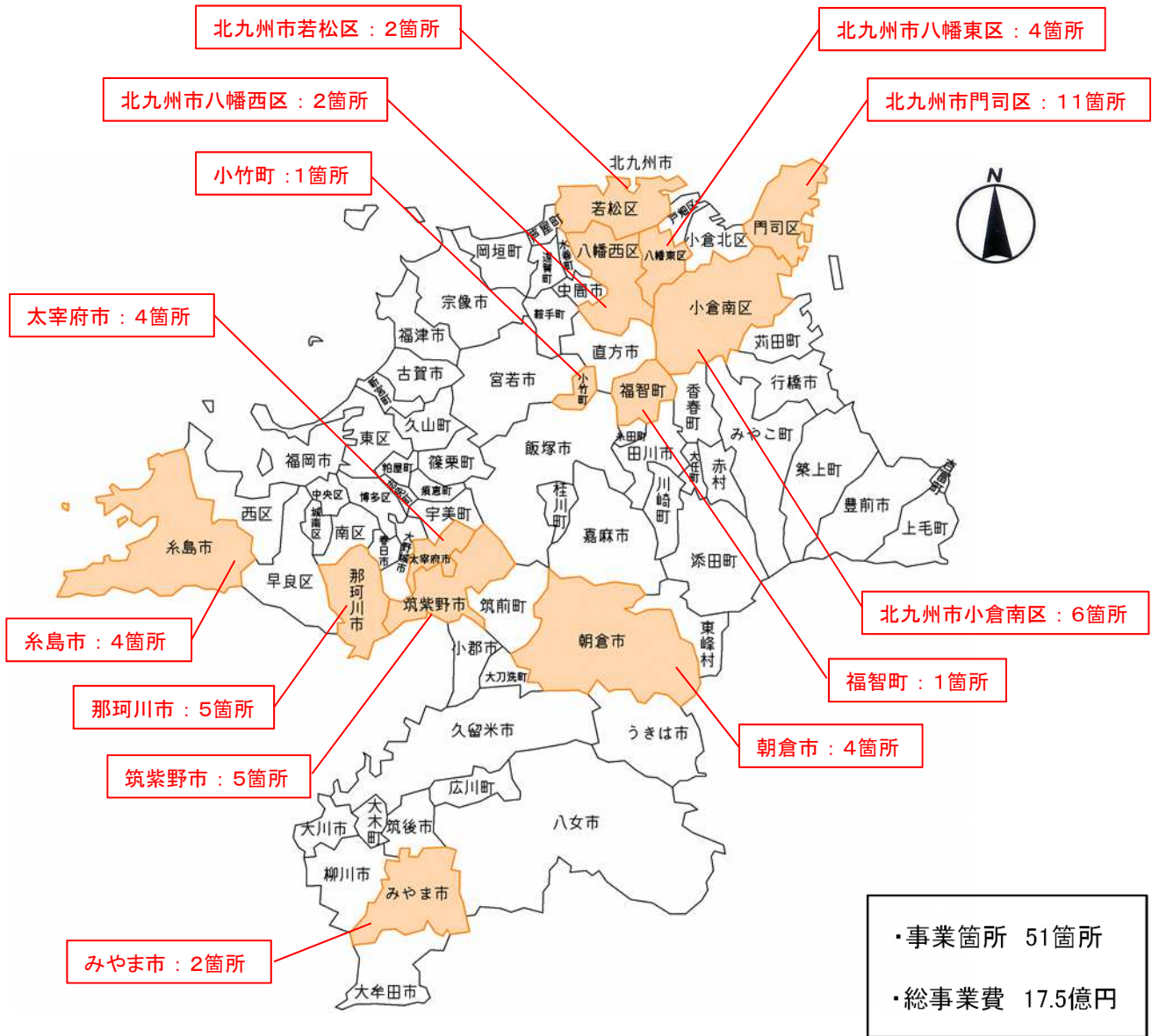
災害関連緊急急傾斜地崩壊対策事業



△奥田地区(北九州市門司区)のがけ崩れ対策状況

災害関連地域防災がけ崩れ対策事業【平成30年】

平成30年7月豪雨が激甚災害に指定されたことに伴い、災害関連地域防災がけ崩れ対策事業 51箇所を実施しています。



災害関連地域防災がけ崩れ対策事業



△北九州市八幡西区(瀬板2丁目地区)のがけ崩れ状況



△筑紫野市山家(吉野地区)のがけ崩れ状況

災害関連緊急事業【平成29年】

平成29年7月の九州北部豪雨をうけ、災害関連緊急砂防事業 23箇所、災害関連緊急地すべり対策事業 3箇所、災害関連緊急急傾斜地崩壊対策事業 12箇所、災害関連地域防災がけ崩れ対策事業 19箇所を実施しています。

災害関連緊急砂防事業



△朝倉市杷木(白木谷川)の土石流状況

災害関連緊急地すべり対策事業



△朝倉市杷木志波(平榎地区)の地すべり状況

災害関連緊急急傾斜地崩壊対策事業



△東峰村宝珠山(大行司駅)のがけ崩れ対策状況

【災害関連緊急砂防事業】

番号	箇所名	所在地	工事概要	事業費
1	正信川(まさのぶがわ)	朝倉市 杷木星丸	砂防堰堤	5.3 億円
2	大黒川(だいこくがわ)	朝倉市 黒川	砂防堰堤	4.9 億円
3	宮園川(みやそのがわ)	朝倉市 黒川	砂防堰堤	1.5 億円
4	馬場谷川(ばばたにがわ)	朝倉市 黒川	砂防堰堤	2.7 億円
5	寒水川(そうずがわ)	朝倉市 杷木古賀	砂防堰堤	6.4 億円
6	奈良ヶ谷川(ならがやがわ)	朝倉市 山田	砂防堰堤	3.6 億円
7	若市沢川(わかいちさわがわ)	朝倉市 杷木若市	砂防堰堤	2.1 億円
8	白木谷川(しらきたにがわ)	朝倉市 杷木白木	砂防堰堤	7.5 億円
9	白木谷川(2)(しらきたにがわ2)	朝倉市 杷木白木	砂防堰堤	4.8 億円
10	白木谷川(3)(しらきたにがわ3)	朝倉市 杷木白木	砂防堰堤	3.3 億円
11	中組谷川(なかぐみにがわ)	朝倉市 杷木白木	砂防堰堤	1.3 億円
12	八坂川(やさかがわ)	朝倉市 宮野	砂防堰堤	2.5 億円
13	北川右支川(きたがわみぎしせん)	朝倉市 杷木志波	砂防堰堤	1.7 億円
14	譚目木谷川(どうめきたにがわ)	朝倉市 杷木志波	砂防堰堤	1.9 億円
15	譚目木沢川(どうめきさわがわ)	朝倉市 杷木志波	砂防堰堤	1.6 億円
16	鬼ヶ城川3(おにがじょうがわ3)	朝倉市 荷原	砂防堰堤	2.0 億円
17	鬼ヶ城川4(おにがじょうがわ4)	朝倉市 荷原	砂防堰堤	0.9 億円
18	千代丸川(ちよまるがわ)	東峰村 大字宝珠山	砂防堰堤	3.2 億円
19	本迫川(ほんさこがわ)	東峰村 大字宝珠山	砂防堰堤	6.6 億円
20	紙屋上谷川(かみやうえたにがわ)	東峰村 大字福井	砂防堰堤	1.7 億円
21	紙屋谷川(かみやたにがわ)	東峰村 大字福井	砂防堰堤	1.7 億円
22	山ノ神谷川(やまのかみにがわ)	東峰村 大字福井	砂防堰堤	2.0 億円
23	宝珠山川(ほうしゅやまがわ)	東峰村 大字宝珠山	砂防堰堤	2.4 億円
	合計	23 箇所		71.6 億円

【災害関連緊急地すべり対策事業】

番号	箇所名	所在地	工事概要	事業費
1	平榎(1)地区(ひらえのき(1)ちく)	朝倉市 杷木志波	法枠工、ﾌﾝｶｰ工	3.0 億円
2	平榎(2)地区(ひらえのき(2)ちく)	朝倉市 杷木志波	法枠工、ﾌﾝｶｰ工	2.1 億円
3	平榎(3)地区(ひらえのき(3)ちく)	朝倉市 杷木志波	法枠工、ﾌﾝｶｰ工	3.5 億円
	合計	3 箇所		8.6 億円

【災害関連緊急急傾斜地崩壊対策事業】

番号	箇所名	所在地	工事概要	事業費
1	真竹地区(またけちく)	朝倉市 杷木松末	法枠工	8.6 億円
2	長安寺地区(ちょうあんじちく)	朝倉市 須川長安寺	法枠工	1.7 億円
3	平地区(たいらちく)	朝倉市 杷木志波	法枠工	4.4 億円
4	蔵谷地区(くらたにちく)	朝倉市 杷木赤谷	法枠工	4.2 億円
5	八坂地区(やさかちく)	朝倉市 宮野	法枠工	9.9 億円
6	宮野地区(みやのちく)	朝倉市 宮野	法枠工	5.5 億円
7	星丸地区(ほしまるちく)	朝倉市 杷木志波	法枠工	1.8 億円
8	宮園地区(みやそのちく)	朝倉市 黒川	法枠工	2.1 億円
9	正信地区(まさのぶちく)	朝倉市 杷木志波	法枠工	0.6 億円
10	大行司地区(だいぎょうじちく)	東峰村 宝珠山	法枠工	1.2 億円
11	紙屋地区(かみやちく)	東峰村 宝珠山	法枠工	2.6 億円
12	枝光地区(えだみつちく)	北九州市 八幡東区	法枠工	0.4 億円
	合計	12 箇所		43.0 億円

災害関連地域防災がけ崩れ対策事業【平成29年】

平成29年7月の九州北部豪雨が激甚災害に指定されたことに伴い、災害関連地域防災がけ崩れ対策事業 19箇所（朝倉市 11箇所、東峰村 8箇所）を実施しています。

災害関連地域防災がけ崩れ対策事業



△東峰村宝珠山(屋敷地区)のがけ崩れ状況

【災害関連地域防災がけ崩れ対策事業】

番号	箇所名	所在地	工事概要	事業費
1	長安寺西地区(ちょうあんじにしちく)	朝倉市 杷木志波	法枠工	0.8億円
2	只越(b)地区(ただこし(b)ちく)	朝倉市 杷木志波	法枠工	0.2億円
3	蔵谷(c)地区(くらたにちく)	朝倉市 杷木赤谷	法枠工	0.7億円
4	導目木(a)-1地区(どうめき(a)-1ちく)	朝倉市 杷木志波	法枠工	0.6億円
5	導目木(b)地区(どうめき(b)ちく)	朝倉市 杷木志波	法枠工	0.7億円
6	浦山地区(うらやまちく)	朝倉市 杷木松末	法枠工	1.5億円
7	松本地区(まつもとちく)	朝倉市 杷木松末	法枠工	0.2億円
8	本村地区(ほんむらちく)	朝倉市 杷木松末	法枠工	0.6億円
9	松末地区(ますえちく)	朝倉市 杷木松末	法枠工	2.8億円
10	内河野地区(うちかわのちく)	朝倉市 杷木古賀	法枠工	2.0億円
11	久毛原地区(くげはるちく)	朝倉市 杷木古賀	法枠工	0.8億円
12	屋敷地区(やしきちく)	東峰村 宝珠山	法枠工	0.6億円
13	馬場地区(ばばちく)	東峰村 宝珠山	法枠工	0.5億円
14	桑の迫地区(くわのさこちく)	東峰村 宝珠山	法枠工	0.6億円
15	皿山(b)-2地区(さらやま(b)-2ちく)	東峰村 皿山	法枠工	0.6億円
16	栗林地区(くりばやしちく)	東峰村 宝珠山	法枠工	0.6億円
17	栗林(3)-1地区(くりばやし(3)-1ちく)	東峰村 宝珠山	法枠工	0.6億円
18	福井(a)地区(ふくい(a)ちく)	東峰村 福井	法枠工	0.4億円
19	戸有(b)-4地区(とあり(b)-4ちく)	東峰村 宝珠山	法枠工	1.7億円
	合計	19箇所		16.5億円

災害関連地域防災がけ崩れ対策事業



△東峰村宝珠山(栗林(3)-1地区)のがけ崩れ状況



△朝倉市杷木松末(松末地区)のがけ崩れ状況



△朝倉市杷木(蔵谷地区)のがけ崩れ対策状況



災害関連緊急事業【平成24年】

風水害、震災等による土砂崩壊など危険な状況に対処するために、砂防施設や地すべり対策施設、急傾斜地崩壊対策施設等の設置を目的とした事業です。平成24年7月の豪雨をうけ、災害関連緊急砂防事業8箇所、災害関連緊急地すべり対策事業4箇所、災害関連緊急急傾斜地崩壊対策事業4箇所を実施しています。

災害関連緊急砂防事業



△志屋川の土石流災害(八女市星野村)

災害関連緊急砂防事業

NO	箇所(河川名)	所在地	工事概要	事業費
1	四条野(しじょうの)	八女市黒木町	砂防堰堤	1.3億円
2	田代川1(たしろがわ1)	八女市黒木町	砂防堰堤	1.4億円
3	栗林(くりばやし)	八女市上陽町	砂防堰堤	1.3億円
4	志屋川(しやがわ)	八女市星野村	砂防堰堤	2.1億円
5	うどう川(うどうがわ)	八女市黒木町	砂防堰堤	1.0億円
6	蔵柱川(くらばしらがわ)	八女市黒木町	砂防堰堤	1.6億円
7	おいわ川(おいわがわ)	八女市星野村	砂防堰堤	1.7億円
8	山口谷川(やまぐちたにがわ)	うきは市浮羽町	砂防堰堤	1.7億円

災害関連緊急地すべり対策事業

NO	箇所(河川名)	所在地	工事概要	事業費
1	田代(たしろ)地区	八女市黒木町	法枠工、アソカ工	7.9億円
2	椿原(つばわら)地区	八女市黒木町	法枠工、アソカ工	2.6億円
3	下名(しもみょう)地区	八女市黒木町	法枠工、アソカ工	3.7億円
4	舟木(ふなぎ)地区	八女市上陽町	法枠工、鉄筋挿入工	5.4億円

災害関連緊急急傾斜地崩壊対策事業

NO	箇所(河川名)	所在地	工事概要	事業費
1	鹿里(ろくり)地区	八女市星野村	法枠工	0.5億円
2	込野(こみの)地区	八女市黒木町	法枠工	1.6億円
3	地藏庵(じぞうあん)地区	朝倉市肥木池田	法枠工	0.2億円
4	原町2(はらまち2)地区	嘉麻市上山田	法枠工	0.2億円

災害関連緊急急傾斜地崩壊対策事業

▽地藏庵地区の急傾斜地の崩壊(朝倉市肥木池田)



災害関連緊急地すべり対策事業

▽田代地区の地すべり災害(八女市黒木町)



6. 砂防激甚災害対策特別緊急事業【平成29年】

平成29年7月の九州北部豪雨では甚大な土石流災害が発生したため、砂防激甚災害対策特別緊急事業 37箇所（朝倉市 32箇所、東峰村 5箇所）を実施しています。
（事業期間 平成30年～令和5年）

砂防激甚災害対策特別緊急事業



△寒水川の土石流状況(朝倉市)



△奈良ヶ谷川の土石流状況(朝倉市)



△本迫川の土石流状況(東峰村)

【砂防激甚災害対策特別緊急事業】

番号	箇所名	所在地	工事概要	概算金額
1	志波沢川(しわざわがわ)	朝倉市 杷木志波	砂防堰堤	3.0 億円
2	志波谷川(しわたにがわ)	朝倉市 杷木志波	砂防堰堤	4.7 億円
3	導目木川(どうめきがわ)	朝倉市 杷木志波	砂防堰堤	6.0 億円
4	鳥山谷川(からすやまたにがわ)	朝倉市 杷木志波	砂防堰堤	2.3 億円
5	北川(きたがわ)	朝倉市 杷木志波	砂防堰堤	6.3 億円
6	由の川(ゆのかわ)	朝倉市 杷木白木	砂防堰堤	5.6 億円
7	導目木川(1)(どうめきがわ1)	朝倉市 杷木志波	砂防堰堤	2.3 億円
8	北川(2)(きたがわ2)	朝倉市 杷木志波	砂防堰堤	2.3 億円
9	寒水川(5)(そうずがわ5)	朝倉市 杷木古賀	砂防堰堤	8.3 億円
10	船底谷川(ふなぞこたにがわ)	朝倉市 杷木古賀	砂防堰堤	5.1 億円
11	八坂谷川2(やさかたにがわ2)	朝倉市 宮野	砂防堰堤	3.8 億円
12	竹山口谷川4(たけやまぐちたにがわ4)	朝倉市 山田	砂防堰堤	3.6 億円
13	倉谷川1(くらたにたにがわ1)	朝倉市 山田	砂防堰堤	3.4 億円
14	倉谷川2(くらたにたにがわ2)	朝倉市 山田	砂防堰堤	3.3 億円
15	山の神谷川(やまのかみたにがわ)	朝倉市 山田	砂防堰堤	2.8 億円
16	山尾坂谷川(やまおさかたにがわ)	朝倉市 須川	砂防堰堤	4.6 億円
17	妙見川(みょうけんがわ)	朝倉市 須川	砂防堰堤	0.6 億円
18	八坂川(やさかがわ)	朝倉市 宮野	砂防堰堤	0.7 億円
19	北川右支川(きたがわみぎしせん)	朝倉市 杷木志波	砂防堰堤	3.3 億円
20	正信川(まさのぶがわ)	朝倉市 杷木星丸	砂防堰堤	1.5 億円
21	大黒川(だいこくがわ)	朝倉市 黒川	砂防堰堤	4.8 億円
22	宮園川(みやぞのがわ)	朝倉市 黒川	砂防堰堤	0.7 億円
23	馬場谷川(ばばたにがわ)	朝倉市 黒川	砂防堰堤	2.2 億円
24	寒水川(そうずがわ)	朝倉市 杷木古賀	砂防堰堤	3.4 億円
25	奈良ヶ谷川(ならがたにがわ)	朝倉市 山田	砂防堰堤	2.3 億円
26	若市沢川(わかいちさわがわ)	朝倉市 杷木若市	砂防堰堤	1.8 億円
27	白木谷川(しらきたにがわ)	朝倉市 杷木白木	砂防堰堤	5.2 億円
28	白木谷川(2)(しらきたにがわ2)	朝倉市 杷木白木	砂防堰堤	3.2 億円
29	中組谷川(なかぐみたにがわ)	朝倉市 杷木白木	砂防堰堤	0.5 億円
30	白木谷川(3)(しらきたにがわ3)	朝倉市 杷木白木	砂防堰堤	0.5 億円
31	鬼ヶ城川3(おにがじょうがわ3)	朝倉市 荷原	砂防堰堤	1.5 億円
32	鬼ヶ城川4(おにがじょうがわ4)	朝倉市 荷原	砂防堰堤	1.0 億円
33	今道川(いまみちがわ)	東峰村 大字小石原	砂防堰堤	1.5 億円
34	葛生谷川(かづらはえたにがわ)	東峰村 大字福井	砂防堰堤	3.3 億円
35	山ノ神谷川(やまのかみたにがわ)	東峰村 大字福井	砂防堰堤	0.5 億円
36	本迫川(ほんさこがわ)	東峰村 大字宝珠山	砂防堰堤	3.5 億円
37	千代丸川(ちよまるがわ)	東峰村 大字宝珠山	砂防堰堤	4.0 億円
	合計	37 箇所		113.4 億円

●その他の施策・関連活動

<災害関連情報の提供等のソフト対策>

1. 情報基盤緊急整備事業

土石流、地すべり、がけ崩れなどの土砂災害から人命を守るためには、住民が早期に避難できるように、土砂災害に関する情報を的確に伝達することが不可欠です。そこで、情報基盤緊急整備事業により雨量等の気象情報の収集や、土砂災害に関する情報を提供するシステムの整備等を行い、土砂災害に対する警戒避難活動の支援を図ります。本県ではホームページやメール等を利用して土砂災害の危険度の高まりや土砂災害警戒区域等、様々な情報を提供しています。

ホームページを利用した土砂災害に関する情報の提供

福岡県砂防課のホームページで土砂災害に関する情報を提供しています。

<http://www.sabo.pref.fukuoka.lg.jp>

The screenshot shows the website interface for landslide hazard information. On the left is a navigation menu with items like '土砂災害警戒区域図' and '土砂災害危険度情報'. The main content area is divided into two parts: '土砂災害警戒区域図' (Landslide Hazard Map) and '公示図書の確認' (Confirmation of Public Notice Documents). In the map section, a callout box says '区域をクリック' (Click the area). In the public notice section, a callout box says '公示図書' (Public Notice Document) and another says 'クリック' (Click). A red arrow points from the map to the public notice section.

土砂災害危険度情報

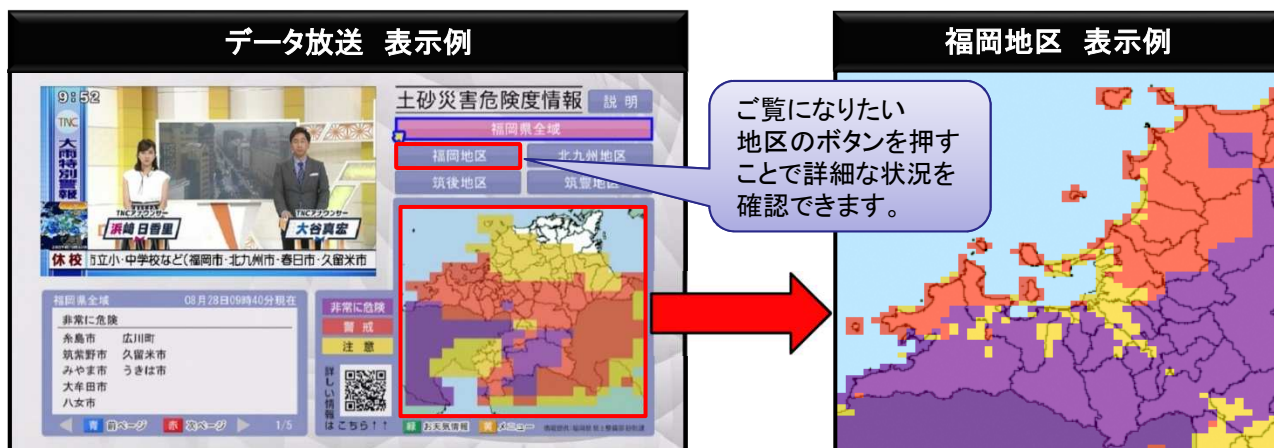
The screenshot shows the '土砂災害危険度情報' (Landslide Hazard Degree Information) page. It features a grid map of the region with numerical values representing hazard levels. A callout box points to the map with the text '危険度の高まりに応じてメッシュの色が変わります。' (The color of the mesh changes according to the increase in hazard degree). To the right is a legend titled '土砂災害危険度情報凡例' (Landslide Hazard Degree Information Legend) with three levels: '非常に危険' (Very Dangerous), '警戒' (Warning), and '注意' (Caution). A vertical color scale labeled '危険度' (Hazard Degree) is shown next to the legend, ranging from yellow (low) to red (high).

テレビのデータ放送による土砂災害危険度情報の提供

インターネットの使用環境がない場合やパソコン等の操作が不慣れな方でも、土砂災害危険度情報を入手できるように、テレビのデータ放送による情報提供を行っています。

リモコンの「dボタン」を押すとデータ放送の画面が開き、「土砂災害危険度情報」を選択することで、情報を入手することができます。

令和元年12月時点で「FBS福岡放送」と「TNCテレビ西日本」の2局で閲覧できます。



土砂災害危険度情報のメール配信

インターネットやテレビ放送による情報提供は、住民自らが情報を取りに行く必要がありました。そこで福岡県では土砂災害の危険度が変化したときに、スマートフォン利用者向けにメールで情報を配信するサービスを行っています。サービスを利用するためには事前登録が必要です。



登録方法

- ① 右のQRコードから登録
- ② 下記のメールアドレスに空メールを送って登録
bousai.fukuoka-dosha@raidен2.ktaiwork.jp

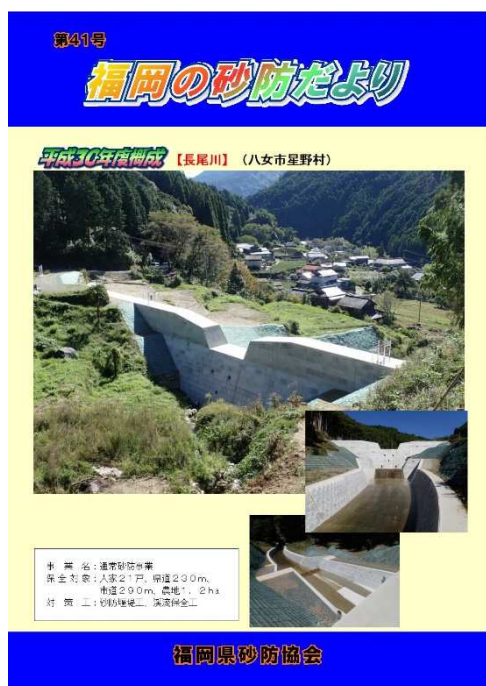


2. 砂防協会の活動について

福岡県砂防協会では、県・市町村職員を対象に砂防講習会を開催するほか、県内外への現地視察研修を行うなど、砂防事業の振興や砂防技術の向上を図っています。

また、機関紙「福岡の砂防だより」や砂防関係事業のパフレット等を発行し、県内の砂防事業の情報発信を行っています。

福岡の砂防だよりの発行



通常総会の開催



砂防講習会の開催



砂防事業現地研修会の実施



福岡県朝倉市にて

国土交通省を始め、様々な分野から講師を招き砂防講習会を開催しています。

福岡県内の他、全国で実施されている砂防事業の現地研修会を実施しています。



宮崎県宮崎市にて

●土砂災害防止法

「土砂災害防止法」とは、土砂災害から国民の生命を守るため、土砂災害のおそれのある区域についての**危険の周知、警戒避難体制の整備、住宅等の新規立地の抑制、既存住宅の移転促進**等のソフト対策を推進しようとするもので、平成13年に「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律（通称『土砂災害防止法』）」として施行されました。

土砂災害防止のための取り組み

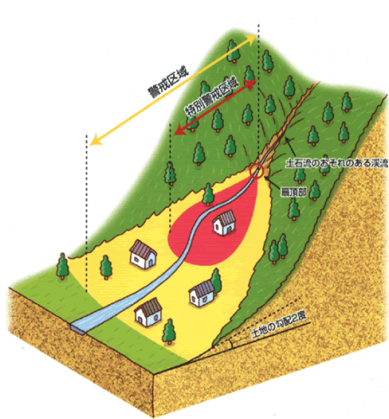
都道府県では、まず、土石流・地すべり・急傾斜地の崩壊の危険のある地域の地形や地質、土地利用状況を調査する基礎調査を実施します。その結果に基づき土砂災害の危険性のある地域を、知事は市町村長の意見を聞いた上で、**土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域**として指定します。

土砂災害警戒区域とは

土砂災害が発生した場合に、住民等の生命又は身体に被害が生ずるおそれがある区域で、警戒避難体制を整備する必要のある土地の区域を土砂災害警戒区域として指定します。

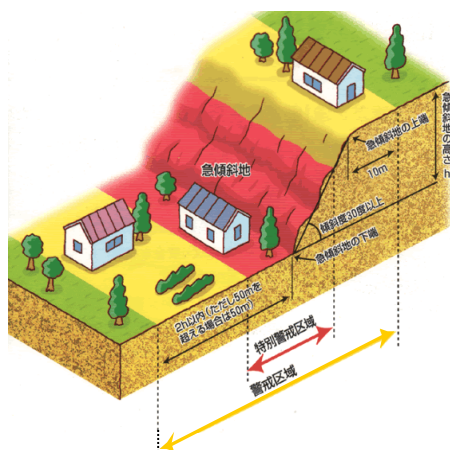
土砂災害特別警戒区域とは

警戒区域のうち、土砂災害が発生した場合に、建築物に損壊が生じ、住民等の生命又は身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる土地の区域で、一定の開発行為の制限及び居室を有する建築物の構造の規制をすべき土地の区域は、土砂災害特別警戒区域として指定されます。



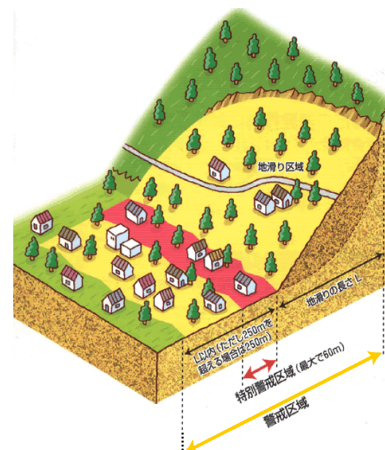
- 土石流の発生のおそれのある渓流において、扇頂部から下流で勾配2度以上の区域。

土石流



- 傾斜度が30度以上で高さ5m以上の区域。
- 急傾斜地の上端から水平距離が10m以内の区域。
- 急傾斜地の下端から急傾斜地の高さの2倍(50mを超える場合は50m)以内の区域。

急傾斜地の崩壊



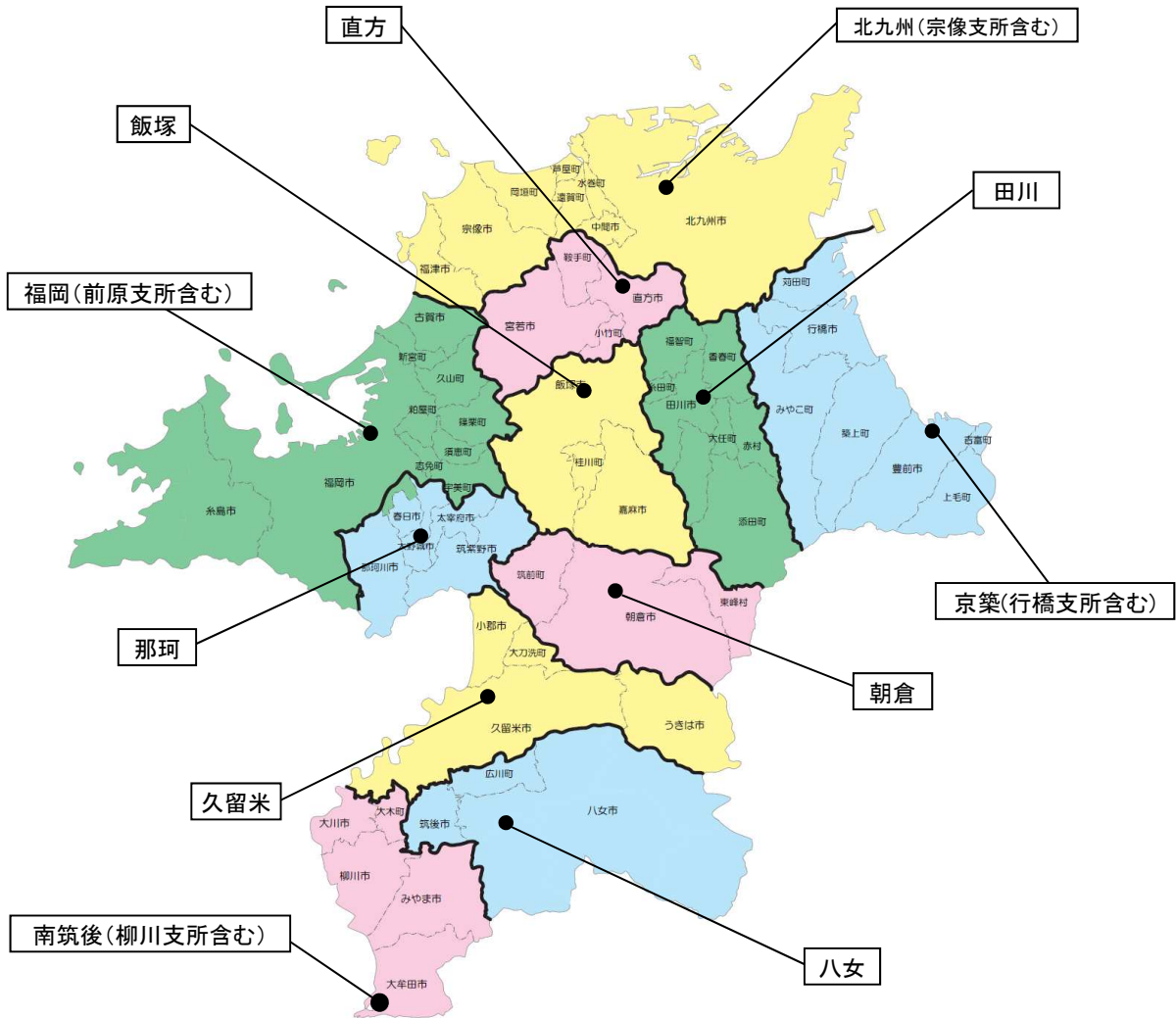
- 地すべり区域(地すべりするおそれのある区域)。
- 地すべり区域下端から、地すべり地塊の長さに相当する距離(250mを超える場合は、250m)の範囲内の区域。

地すべり

土砂災害警戒区域と土砂災害特別警戒区域

●福岡県の土砂災害警戒区域等箇所数

福岡県で土砂災害警戒区域の箇所は17,674箇所、そのうち土砂災害特別警戒区域は16,108箇所を数えます。（令和元年12月末現在）

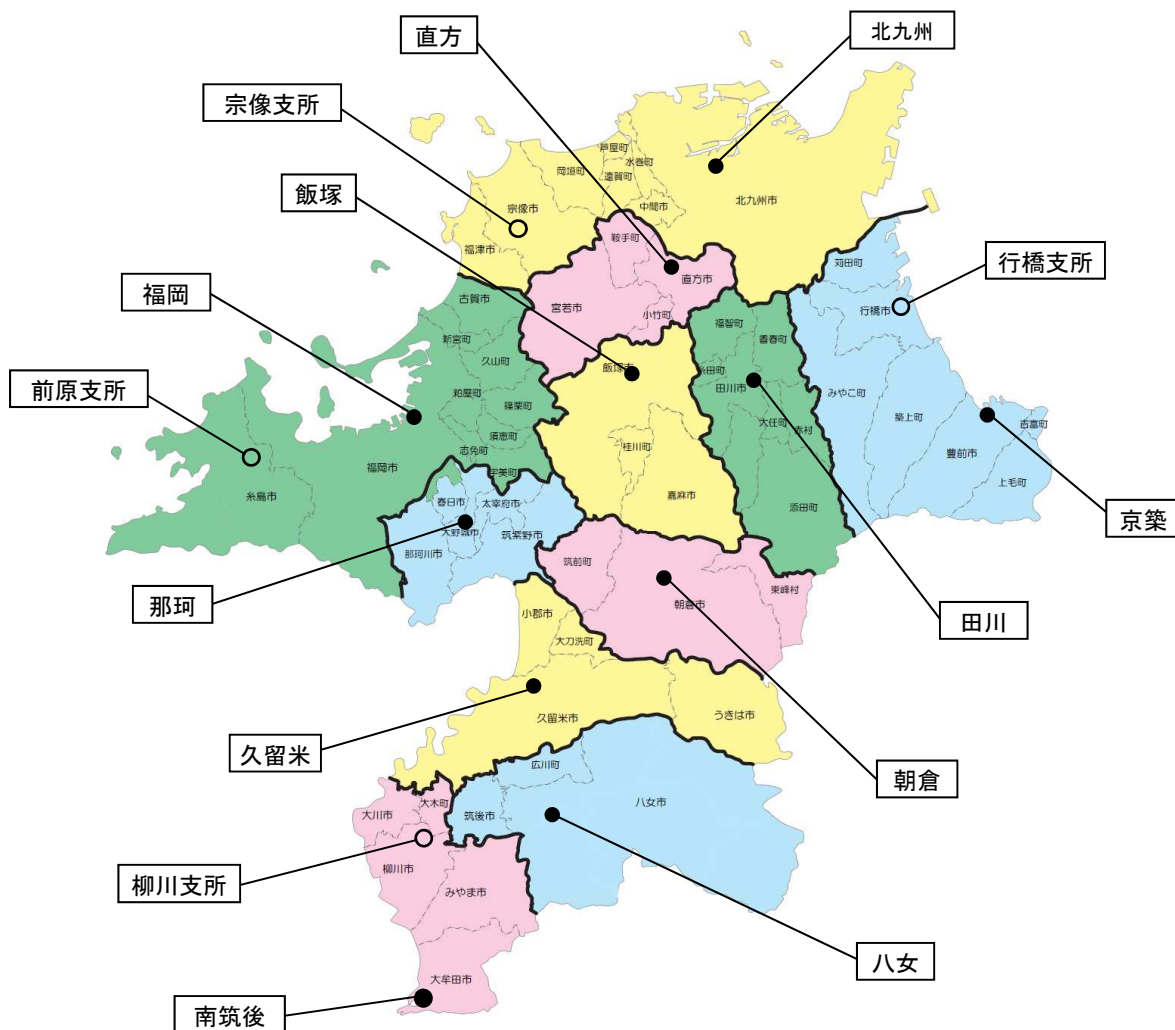


福岡県の土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域数 令和元年12月末現在

県土整備事務所	土砂災害警戒区域			土砂災害特別警戒区域		
	土石流	急傾斜	地すべり	土石流	急傾斜	地すべり
福岡(前原支所含む)	1,012	2,710	13	890	2,430	0
久留米	230	267	6	208	254	0
直方	294	1,363	8	257	1,240	0
朝倉	596	601	11	535	596	0
八女	711	1,066	93	648	1,052	0
北九州(宗像支所含む)	701	2,189	46	651	2,018	0
田川	338	1,078	7	323	1,004	0
飯塚	393	1,152	5	358	1,073	0
那珂	307	553	3	268	525	0
南筑後(柳川支所含む)	133	518	9	121	493	0
京築(行橋支所含む)	475	776	10	418	746	0
小計	5,190	12,273	211	4,677	11,431	0
合計			17,674			16,108

●砂防指定地等の管理

土石流、がけ崩れ、地すべり災害の発生する恐れのある区域を砂防指定地、急傾斜地崩壊危険区域、地すべり防止区域に指定し、対策工事を行うとともに指定された土地においてそれぞれの法律で定められた行為の制限を行っています。



福岡県の砂防指定地等

令和元年12月末現在

県土整備事務所	砂防指定地		急傾斜地崩壊危険区域		地すべり防止区域	
	箇所数	面積 (ha)	箇所数	面積 (ha)	箇所数	面積 (ha)
福岡	143	352.4863	39	21.9112	3	52.8500
福岡(前原支所)	172	325.6006	13	12.4037	2	25.9023
久留米	91	447.5772	6	7.3315	1	8.3300
南筑後	8	13.9600	9	6.0199	3	21.5700
南筑後(柳川支所)	31	74.9788	12	15.9947	3	72.5200
直方	74	141.0728	86	44.8557	2	23.0600
京築	89	317.1837	20	23.7721	0	0.0000
京築(行橋支所)	78	169.8960	8	5.0085	2	17.9000
朝倉	199	574.5323	27	15.2386	4	40.2600
八女	181	594.4166	39	53.0791	32	578.1857
北九州	138	249.1784	106	79.8598	7	108.1100
北九州(宗像支所)	39	148.7748	37	19.8332	0	0.0000
田川	123	261.6653	36	47.4167	2	17.9400
飯塚	81	177.8564	65	38.8136	2	12.7000
那珂	77	212.0126	11	5.6813	1	11.4000
合計	1,524	4061.1918	514	397.2196	64	990.7280

●福岡県の砂防事業の推移

年月日	福岡県	年月日	国
明治9年8月 (1876年)	福岡県発足	明治30年3月30日 (1897年)	「砂防法」制定
明治11年11月 (1878年)	土木課設置	昭和15年4月2日 (1940年)	全国治水砂防協会設置
昭和14年 (1939年)	砂防事業開始 遠賀川水系大力川(嘉麻市(旧嘉徳町)大字大力)に床固工3基 筑後川水系北川(朝倉市(旧杷木町)志波)に床固工1基	昭和23年7月10日 (1948年)	建設省発足
昭和21年2月 (1946年)	砂防課設置	昭和28年 (1953年)	緊急砂防事業開始 治山治水基本対策要綱策定(治水十箇年計画樹立)
同 4月	砂防協会設立	昭和33年 (1958年)	地すべり等防止法の制定
昭和22年12月 (1947年)	土木部設置	昭和37年4月1日 (1962年)	建設省河川局に砂防部設置
昭和28年 (1953年)	昭和28年6月25日～28日西日本豪雨大水害(門司大災害) 門司砂防事務所設置	昭和42年 (1967年)	土石流発生危険溪流調査を実施
昭和29年 (1954年)	地すべり対策事業に着手	昭和45年5月1日 (1970年)	河川局砂防部に地すべり対策室を設置
昭和32年 (1957年)	ぼた山崩壊防止事業開始	昭和47年(1972年)	土石流、地すべりがけ崩れ危険箇所の総点検
昭和37年4月30日 (1962年)	門司砂防事務所廃庁	昭和48年(1973年)	「がけ崩れ防災週間」の設定
昭和38年 (1963年)	昭和38年6月29日～30日梅雨前線により早良に土石流発生	昭和52年(1977年)	土石流等の災害危険箇所の再点検を実施
昭和42年 (1967年)	急傾斜地崩壊対策事業着手 長谷地区(北九州市門司区)	昭和57年(1982年)	急傾斜地崩壊危険箇所再点検の実施
昭和45年6月1日 (1970年)	ぼた山災害防止事業(通産ボク山防止工事)実施	昭和58年6月 (1983年)	「土砂災害防止月間」の創設
昭和48年 (1973年)	昭和48年7月30日～31日 梅雨前線により宝満三郡山系土石流発生	昭和63年(1988年)	緑の砂防ゾーン創設事業開始
昭和57年11月 (1982年)	急傾斜地崩壊危険箇所の再点検実施(1,713箇所)	平成2年(1990年)	ふるさと砂防モデル事業の開始
昭和61年9月 (1986年)	土石流及び地すべり災害危険箇所の再点検実施 (土石流1,707箇所、地すべり170箇所)	平成3年(1991年)	魚がのぼりやすい川づくり推進モデル事業開始
平成元年(1989年)	水と緑の砂防モデル事業着手(二丈町・加茂川)	平成4年(1992年)	砂防コミュニティ事業開始
平成2年7月 (1990年)	平成2年6月28日～7月3日 県南部梅雨前線豪雨 緑の砂防ゾーン創出事業着手(絹川:北九州市門司区)	平成6年(1994年)	砂防ランドスペース創出事業開始
平成3年4月20日 (1991年)	地すべり激甚災害対策特別緊急事業着手 (松尾・佐野・原地区H3～H5)	平成7年(1995年)	溪流再生事業開始
同 9月	台風17号(9月14日)、台風19号(9月27日)により県下全域 に大きな被害をもたらす(風倒木災害)	平成8年(1996年)	情報基盤緊急整備事業開始
平成6年 (1994年)	砂防激甚災害対策特別緊急事業に着手 (久留米・八女土木 砂防堰堤24基 H6～H8)	平成12年(2000年)	土砂災害情報相互通報システム整備事業開始
平成7年5月 (1995年)	ふるさと砂防事業開始(山田川:宗像市、H7～H9) (清滝川:北九州市、H10～H12)	平成13年(2001年)	中央省庁再編に伴い国土交通省発足
平成8年 (1996年)	特定利用斜面保全事業(古賀地区:水巻町、H7～H12) (十籠地区:星野村、H8～H11)	同 4月	土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進 に関する法律(土砂災害防止法)の施行
平成15年7月 (2003年)	水辺の楽校プロジェクト (地下川:朝倉市(甘木市)、H9～H16)	平成17年(2005年)	総合流域防災事業開始
平成16年(2004年)	砂防激甚災害対策特別緊急事業に着手 (福岡・飯塚・那珂土木砂防堰堤 H16～H18)		
平成17年(2005年)	福岡県西方沖地震(玄界島地すべり対策事業H18～H20)		
平成20年(2008年)	組織再編により県土整備部となる		

年 月 日	福 岡 県	年 月 日	国
平成21年(2009年)	平成21年7月中国・九州北部豪雨災害 県ホームページにて 土砂災害危険度情報 の閲覧を開始	平成22年(2010年)	総合流域防災事業開始
平成24年(2012年)	平成24年7月九州北部豪雨災害	平成24年(2012年)	交付金事業開始
平成29年(2017年)	平成29年7月九州北部豪雨災害 土砂災害警戒区域内の要配慮者利用施設へ 土砂災害危険度情報 のメール・FAX配信を開始 地上デジタル放送にて 土砂災害危険度情報 の配信を開始	平成29年(2017年)	直轄砂防事業（星野川）に着手（H24～H27） 直轄砂防事業（赤谷川）に着手
平成30年(2018年)	平成30年7月豪雨災害 砂防激甚災害対策特別緊急事業に着手 （朝倉県土 砂防堰堤25基 H30～R5）	平成30年(2018年)	国土強靱化による3ヵ年の予算の臨時特別措置 （H30～R2）
		令和元年(2019年)	新設補助事業が創設 （大規模特定砂防事業、事業間連携砂防等事業）

このパンフレットのお問い合わせ先

福岡県県土整備部砂防課

制作 令和2年3月

〒812-8577 福岡県福岡市博多区東公園7番7号

tel 092-643-3679

fax 092-643-3689

e-mail: sabo@pref.fukuoka.lg.jp

ホームページ: <http://www.sabo.pref.fukuoka.lg.jp/>